

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
発行人 山崎 哲
編集長 仲井 真裕
印刷 大進ラベル印刷(株) 03-3787-3621



令和7年
11月号

大悲に生きる人とあう
願いに生きる人となる



講談社旧本館(文京区)

西徳寺の予定

11月

1日(土)・2日(日)

西徳寺報恩講

布教使:竹林栄哲師

8日(土) 午後3時

燈虹塾基調公演

12日(水) 正午

婦人会食事会

15日(土) 午後2時

定例間法会

16日(日) 午後2時半

城北ブロック会間法会

場所:西日暮里「一合」

21日(金)～28日(金) **本山御正忌報恩講**

29日(土) 午後5時半 **同行会「和讃」に学ぶ**

法話:山崎住職

※予定は変更することがあります。詳しくは寺務所までお問合せください。

12月

7日(日) 午後2時半 **中央ブロック会間法会**

場所:西徳寺

13日(土) 午後5時半 **同行会「和讃」に学ぶ**

法話:高橋 淳

16日(火) 午後4時半 **燈虹塾セミナー**

17日(水) 午後1時半 **婦人会間法会**

20日(土) 午後2時 **定例間法会**

31日(水) 午後3時 **歳暮法要**



11月の山門の言葉



庶類のために ^{しょう}請せざる友と作る 『仏説無量寿経』

「嫌いな人いる？」中学生時代、突然聞かれ、「大嫌いな友人がいる」と答えた。すると「それは大事な人だなあ(笑)」と言われた。非常に腹立たしい思い出。

それはどういう意味なのだろうか。随分、時を経て考えるようになり、なるほどという思いが少し湧いてきた。それは単純なことで、嫌な人は自分自身の嫌なところを引き出してくるということだ。その人を前にすると憎悪が湧き出してくる。私が見るみる嫌な人になっていくのだ。これが私の本性なのだろう。

私たちが「友」という時は、気心が通じ、波長が合い、居心地が良い人を想像する。当然、それも大切な友である。しかし「請せざる友」ということは、そうではない人も含まれる。むしろ本当の私を引き出し、照らし出す存在こそ「不請の友」なのであろう。好きな人は好きなままに、嫌いな人は嫌いなままに、どちらも私を照らし出す大切な人。

この出会いには時間を要する。「今思えば…」であることが多い。一週間、一年、もしかしたら十年の時を経ることもあるかもしれない。さらには、その方が亡くなってからということもあるだろう。その言葉が時と場所を超えて、機が熟し響いてくる時が成就する。

「ハラスメント」が増加し続ける昨今であるが、早々、軽々の場合もあるのではないだろうか。もしかしたら愛情ある指導、指摘、教育がその中に埋もれてゆくのではないだろうか。その判別が難しくなってきた。瞬間的な個人感情が優位になっている現代に、警鐘を鳴らす言葉となつて響いてくる。

(山崎 哲 記)

顧問のカレンダーに聞く



浄土へ生まれたい
じょうど

というのは

浄土へ生まれよう

如来の命令なんだ
にょらい

言うところを聞かない子どもを、叱りつける親御さんを見かけます。阿弥陀如来は叱りつけるように命令をするわけではありません。

浄土に生まれるとは、どこか特別な場所に行くことではありません。今、ここに、いのちを賜っている事実が目覚めることです。私のいのちを支える背景が、浄土のはたらきなのであります。

「いのちに目覚めよ」

「いのちに目覚めよ」と

絶えず阿弥陀如来が呼びかけ続けてくださっている。私たちが生まれると思うのは、その呼びかけに気が付くこと。それが要なのです。



Our wish to be born in the Pure Land arises from what the Tathagata tells us.



いまさら聞けないお寺のこと

「線香」



一般的に仏事では線香は立てて使用されていますが、これは江戸時代に、禅寺で坐禅の時間を計るために立てて用いられていたことが由来しているのではないかと推察されます。真宗では香炉の大きさに折って寝かせて用います。

仏教発祥のインドでは、遺体等から出る悪臭を防ぐために香木(沈香、白檀、伽羅等)を焚いていたとされています。現在私たちがお焼香の際、抹香を香炉にくべるのは、それが簡略化されたものであり、線香をくべるのはさらに簡略化された形です。

また線香を立てて供えようと倒れて火事の原因にもなるそうです。そういうことも踏まえて、線香は寝かせて供えるのがいいのではないかと思います。

その香りや煙を縁として、亡き人を思い起こす時間となることが大切ではないでしょうか。



西徳寺令和の大改修 芳名板設置

本堂改修に向け、ご協力を賜っておりますこと心より御礼申し上げます。
境内にご寄付（瓦懇志とは別）のお申し込みをいただきました方のご芳名を、随時、掲示させていただいております。

【氏名】に付きましては会社名でも構いません。またご希望であれば「連名」「故人のお名前」も可能ですので、お知らせください。

引き続きお力添え、何卒よろしくお願いいたします。

合掌 住職 山崎 哲

※申込用紙に「ご芳名掲示を希望しない」方のチェック項目がございますが、西徳寺といたしましては、ご事情がなければなるべくご掲示させていただきたいと思っております。既に「掲示を希望しない」申し込みをされた方で、掲示しても構わないという方は西徳寺までご連絡をいただければと存じます。



画像を一部加工しております

城西ブロック会聞法会

去る10月5日(日)、西徳寺「梅檀の間」を会場に聞法会を開催致しました。

聞法会では大谷顧問に法話を頂戴しました。話の中で「御恩報謝」ということに触れられ、私たちの「いのち」は、どこまでも賜った「いのち」であるということをお念仏の教えによって、改めて教えられていると仰いました。当たり前のようにしているこの「いのち」に支えられていることへの「御恩報謝」の生活が大切であると教えていただきました。

その後は希望者のみで懇親会を行い、賑やかな時間を過ごせました。ご出席いただきました皆様には、この場を借りて改めて御礼申し上げます。ご出席ありがとうございました。(担当：大橋 伊知郎 記)



城南ブロック会聞法会

10月12日、三茶しゃれなあどに於いて第113回聞法会を開催致しました。会員15名のご参加をいただき、『生きているうちに楽しんでおかねば』をテーマに皆様と学ばせていただきました。今回は、大橋副住職にお話をいただきました。

我々は人生において、暗い面を避け、明るい面を充実させようとする。しかし、明るい面は私たちの思いによってころころと変わる、当てにならないものである。その自分の心を一番当てにしているところに、我々が自身に「酔う」姿があるのだと教えられました。

次回は、2月8日(日)。新会場、横浜開港記念会館に於いて、聞法会を開催する予定です。ご参加をお待ちしております。

(担当：大谷 隆 記)



台東区合唱祭 出演のご報告

西徳寺所属の「西徳寺混声合唱団『エコー』」が、浅草公会堂にて、台東区合唱連盟主催の「第68回台東区合唱祭」に出演しました。毎回仏教歌を歌うのですが、今回は山崎住職を交え「三皈依」を歌いました。聞いたお客様からは「仏教歌というものを初めて聞いたが、良かった」とお褒めの声をいただき、初めての方にも触れていただく機会となりました。

(高橋 淳 記)



新職員紹介 加藤 ^{ひろむ} 弘

本年9月より、加藤弘さん（69才）に色花やお線香を取り扱う「華香所」の業務に就いていただくことになりました。前職は生花店で、今までも報恩講やお正月の際には、会館エントランスなどのお花を依頼しておりました。

とてもお人柄もよい方です。お気軽にお声掛けいただければと思います。

なお、原則月曜日～金曜日の勤務となります。

何卒、よろしくお願いいたします。

住職 山崎 哲



ランドマーク 講談社旧本館

読書の秋ということで、今月は文京区にある講談社旧本館（講談社本社）に伺いました。

創業は明治42年（1909年）。当時「雑誌王」と呼ばれた野間清治により、弁論雑誌『雄辯』を出版する大日本雄辯會が設立されました。明治44年（1911年）に雑誌『講談倶楽部』を創刊し、講談社を

名乗ります。昭和33年（1958年）に「株式会社講談社」へ改称しました。

この旧本館は、昭和8年に曾禰中條建築事務所の設計により建てられた、鉄筋コンクリート造6階建ての建物です。

講談社は、Inspire Impossible Stories = 「おもしろくて、ためになる」を理念として、『週刊少年マガジン』『週刊現代』『群像』など30誌以上の雑誌、文芸書からコミック等、数多くの書籍を発行しています。またレコード会社のキングレコードは、元々講談社の音楽部門でした。



たくさんの方が展示されています



坊さんのツブヤITTER



@イチー

先日、息子にとって初めての運動会を見学してきた。親となった私にとっても「初」ということで、前日の夜は緊張で眠りが浅かった(笑)

息子の走る、踊る、投げる、どれを取ってもおぼつかないが、ハイハイしていた頃から考えると成長したな～と思わせる一日でした。

#初めての #運動会 #4歳児 #子供の成長



えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

大阪府 最勝寺 様

板橋区 木下 順子 様

江戸川区 形屋 顕弘 様



内愚外賢

～賢者の信を聞きて、愚禿が恥を顕す～

ようやく涼しくなり、暑いのが苦手な私は、ようやく安心して出歩くことができるようになりました。休みの日は時々散歩をするのですが、少し違う道を通して、新しい発見を探します。友人と呑みに行くのも、行ったことのない場所に行くと新鮮味があるものです。

40才を過ぎ、人生って思い通りにならないものだなあと思うことが多いですが、想定通りばかりの人生も退屈なのかもしれません。無い物ねだりばかりしてるなあ、ボンヤリ考えながら、いつもと違う曲がり角を曲がるのでした。

(編集長 仲井 真裕 記)



初めて降りた恵比寿駅

えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。

✉ saitokuji@ce.wakwak.com
🌐 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>



ホームページ

ゆうちょ銀行お振り込み口座
00120-0-80670 名義 西徳寺



Facebook